

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400680		
法人名	有限会社ルーツ		
事業所名	グループホーム泉の里		
所在地	青森県北津軽郡中泊町今泉字神山141		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との関わり、繋がりを持つ為に、「グループホーム」そのものを理解して頂けるように、民生委員の方には運営推進会議に参加して頂いています。併設しているデイサービスの利用者には、事業所紹介を込めたパネルディスカッションを開催しています。夏祭りは、事業所の特徴を活かしたのとなっており、グループホームの行事の枠を超え、地域の行事として根付きつつあります。毎日の献立は、入居者の希望を取り入れながら、常に見直しを行う事で楽しみとなって頂けるように工夫しています。天然かけ流しの温泉入浴も身体と心を癒してくれます。職員は日々笑顔で一緒に楽しみ、一人ひとりに寄り添ったケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

入居者の自立支援に向けての介護の方法について代表者をはじめとして熱心に取り組まれており、入居者自身も生活を自分本位に楽しんでいることがうかがわれる。グループホーム内外の環境作りにも力をいれており、広い敷地にゆったりとしたホールや居室などがあり、ホールの大きなガラス窓には水のカーテンが心を和ませてくれる。
各居室からの眺めもよく、手入れされた庭園や、のどかな田園風景の向こうには小高い山々があり、四季が十分に味わえる。
食事にいたっては、吟味された器を使っており、デザートなどもガラスの器を利用するなど食欲を促すような工夫が見られる。また、その都度、味や量、色合いなど入居者の意見を聞きながら対応されており、食の大切さを大事にしている。非常時の対応については隣接する建設会社の協力体制があり、頼もしさを感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしさお守りします これまでの暮らしに敬意を これからの暮らしに希望を」の運営理念のもと、暮らしなれた地域の中で、自分らしく安心した生活が送れるようにと常に考え、一人一人に寄り添ったケアの実践に取り組んでいる。	ホーム独自の理念を掲げ、日々のサービスに反映させている。また、理解を深めるためにパネルディスカッションを行ったり、アンケートをとる等しながら、民生委員や地域の方々にわかってもらえるよう工夫されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、地域で活動している「横笛愛好会」へ入会し、町内でのイベントに参加し交流をしている。又、地域の商店や美容院、理髪店の出張サービスを利用し日常的に交流している。	職員が積極的に地域の活動に参加されて、入居者と共に交流されている。また、定期的に食料や衣料品などの出張販売があり、入居者が利用されている。理容等についてはその都度出張してくれたり、こちらから出かけたりして利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、事業所の役割や支援方法を知って頂くために、併設しているデイサービス利用者とのディスカッションを行い、事業所紹介という場を設けている。今後も継続して開催する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター、行政の職員が会議に参加し、アドバイスを頂きながらサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、地域包括支援センターや地域住民の方に参加していただき、評価結果や困難事例、入居者の暮らしぶり等が報告されている。そこでの意見や提案は、サービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	課題が発生した場合には、都度相談し方向性の指導を頂いている。特に、運営推進会議では相談出来る場となっている。	町の担当者や地域包括支援センターに、直面している課題等についてその都度相談したり、対処方法を確認するなどしており、密接な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や勉強会で身体拘束について学んでいる。緊急やむおえず行動の制限が必要となった場合には、主治医の指示のもと最小限度のものとし、家族の理解と協力を得ながら速やかに解除出来るように努める方針です。	研修に参加した職員が伝達研修を通じて全職員に周知している。医療的にやむをえない例もあったが、主治医の指示のもとに行い、生活リスクについて家族とも確認しあいながら最小限度にとどめ、最終的にはやらないケアにつながられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で理解を深め、事業所の定例会や勉強会で話題としている。言葉遣いに注意する事はもちろん、入居者の尊厳を第一に、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターに勉強会を依頼し、学ぶ機会を持つ事が出来た。現在制度を利用されている方はいないが、必要に応じて活用していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点など、話しやすい環境作り心がけ、懇切丁寧に対応している。契約に変更があった際には(料金)、文書で通達し同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	嗜好調査や普段の会話を通して、意見や要望をお聞きし、食事のメニューの改善など運営に直接活かしている。又、入居者、家族には運営推進会議に参加して頂いている。	意見箱の設置の他、家族からは面会時や電話連絡時に、入居者からは日々の会話や調査を行うなどして意見を吸い上げている。それらの意見は日々の運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や、毎月の定例会で意見交換を行っている。提案のあったものは密に話し合いが行われ、運営に反映されている。	定例会では、一人ずつ意見を出してもらったり、職員の旅行や食事会を通してコミュニケーションをとりながら、代表者と気軽に話ができる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じ研修を受講出来ている。研修報告書をもとに、定例会や勉強会で代表者と職員と一緒に学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一回、地域ケア会議に出席している。三ヶ月に一回、地域のグループホームと交流会を開催し、地域のグループホーム全体で、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネや家族と協力しながら、本人の今後の暮らし、言葉に耳を傾け、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階から、心配事や要望を聞く時間を設け、いつでも相談出来る環境、関係づくりに努めている。アセスメントを重要視している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極め、十分に話し合いし対応している。必要に応じては、各関係機関との連携を図っている。入居者の代弁者として支援内容の優先順位を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で得意分野を引き出しながら、時には教わりながら、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの情報や気づき、入居者の思いを共有し、受診の際には付き添って頂くこともあり、家族と一緒に悩み考えながらケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの場所の把握に努め、墓参りや地域交流を行っている。併設のデイサービスを利用して友人に会いにいたり、グループホームに友人が会いに来てくれたりしている。気軽に遊びに来て頂けるような環境づくりを心がけている。	入居前まで顔なじみだったデイサービスの利用者とお互いに行ったり来たりしている。希望に応じて墓参りに出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんの場を設け、部屋に引きこもらず、「お茶の時間」を職員と過ごすなど工夫している。個々の役割を持ち、入居者同士が、支え助け合いながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居の際は、職員が洗濯物、必要物品など家族に代わり支援している事もある。退院後の転居先の情報を集め、家族に提供し相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や表情などから真意を汲み取り理解し個人処遇に努めている。意思疎通が困難な方には、家族の協力を得ながらアセスメント、カンファレンスをしている。	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方に対しては家族からの情報や本人のしぐさや状況から見出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、在宅時の担当ケアマネ、家族や関係機関より情報を集めているが、本人との会話の中からも聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記入し、職員が共有し把握している。毎日のコミュニケーションを通し、「気づき」を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を敷いており、入居者の状況を把握すると共に、毎月のモニタリングでは、本人の思いを一番に考え話し合っている。家族の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	介護計画には、本人の意向や思いをできるだけ取り入れる他、家族等の意見も取り入れながら作成されている。具体的な内容については誰でもわかりやすい文面で作られており、モニタリングも定期的に行われている。	入居者及び家族の生活に対する意向については、本人が何を望んでいるのかを具体的に聞き出し、介護計画作成に反映させることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や支援経過、モニタリング表に個別に記入し、申し送り簿を作成し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、固定観念にとらわれず、常に入居者の立場になって、いま必要な事大切に思っている事を考え、冠婚葬祭の付き添いや送迎に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時には、地域の方のボランティアや消防団の協力を得られ、安心した暮らしを支援している。行事参加や慰問の受け入れも行う他、入居者自身が得意な芸を披露するなど楽しんで頂けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院を受診出来るようにしているが、必要に応じては、適切な医療が受けられる病院への受診を支援している。	これまでのかかりつけ医を希望される場合は受診できるよう支援されている。また、その場合でも緊急時の早急な診療が可能となるように、総合病院との連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理、助言や指示をしてくれる看護師を配置している。24時間連絡を取れる体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に職員が伺い、早期退院に向け情報交換している。院内の地域連携室とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を定めており、緊急入院時等の同意書を作成している。医師や家族と協力しながら支援に取り組んでいる。	重度化や終末期への対応については事業所独自に指針が示されており、入居時に説明されて同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全職員が周知している。又、普通救命講習Ⅱを全員受講している。施設内にはAEDを設置し、定期的に使用方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施している。(夜間想定を含む)実施後は、必ず振り返りの時間を設け話し合いを行っている。地域住民の協力を得られており、停電時すぐ対応して頂いた。	消防署の他、地域住民や消防団の協力を得て、年2回の避難訓練を実施されている。災害時に備えて食料や飲料水、懐中電灯等の準備・備蓄がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所独自で、BST向上委員会を結成しており、入居者の今までの暮らしに、敬意をもって接するよう普段から心がけ、「優しい笑顔 目配り 気配り 心配り」を目標に取り組んでいる。	入居者個々の性格やこれまでの暮らしを十分把握されており、本人らしさを損なわないよう、敬意を持って対応されている。事業所独自のビューテフルスマイルトークというユニークな取り組みもされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切に、入居者の精神状態を観察し、特にドライブや買い物で自己決定の場面作りを意識し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態に合わせ、本人の気持ちを尊重し個々のペースに添った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店、美容院の出張サービスがあり、本人の希望に添ってカットしている。髪染めやパーマなどの要望にも対応している。季節にあった服装のアドバイスも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査により、入居者の好みを把握しメニューに取り入れている。準備や片付けも、力量に合わせ担当制にするなどして一緒に行っている。	献立は昼・夕食は栄養士、朝食は職員が入居者の好みや季節にあったメニューを作成している。苦手なものに対しては代替食を提供したり、食器の工夫もされて食事を楽しめるように配慮されている。準備や片付けは状況に合わせ、入居者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活記録に、食事量や水分量を記録している。特に夏場の水分補給に関しては、スペシャルドリンクと称して、水、塩、レモン、砂糖で飲料水を作り提供している。状態によっては、果物や栄養補助食品を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々の力量に合わせて介助をしている。舌洗浄も行って頂けるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンは、日常的に職員同士で情報交換し把握に努めている。本人が望む限り、残された力を活かしてトイレで排泄出来るように支援しています。	排泄パターンの把握に努め、事前にトイレ誘導している。おむつ使用の方については確認時に排泄のない時はトイレ誘導するなど、自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけではなく、水分、食品量、乳製品や適度な運動で、自然排便を促すように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	併設している温泉での入浴を楽しみにされています。入浴前にバイタルチェックを行い、安心して入浴をして頂けるように支援している。希望に添った日に入浴出来るように調整を行っている。	かけ流しの温泉が特色であり、入浴は楽しみとなっている。基本的に週3回入浴できるように支援されており、希望があれば毎日でも入浴できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師の指示により眠剤を服用する場合でも、常に話し合いを行い、日中の活動量を増やす努力や、足浴、マッサージやボディタッチをする等、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を生活記録にファイルし、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった際には、注意して観察し記録に残し医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を活かして、家事作業や畑作業が行えるようにしている。本人の希望や状態別に合わせた外出先を選ぶなど、気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ(回転寿司、ねぶたの館)など希望に添って外出、外食支援している。冠婚葬祭や、墓参りにも家族と協力しながら積極的に出掛けられるように取り組んでいる。	天気の良い日は、中庭や事業所周辺の散歩に出かけている。その他、年間計画を立て、普段から入居者の希望をとりながら、日常的に楽しい外出ができるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の場合は、本人と家族の希望により、金額を決め所持して頂いている。職員と一緒に小遣い帳を付けるなど、自分で使い道がわかるように支援している。家族には、毎月小遣いの残金を確認後、捺印を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けられるようにしている。場合によっては、子機を使用し居室で会話出来るような配慮もしている。手紙のやり取りが出来るような援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、ゆったりくつろげるようになっている。全館光触媒の効果で、不快な臭いが残らないようになっている。室内の温度や湿度を管理し、快適に過ごせるように支援している。	共有空間は広々としており、生活感や季節感を感じながらくつろげるようにしている。ソファや椅子の配置をその都度入居者の状況により配置されている。また、水カーテンで和やかさを演出し、温度や湿度の管理を行うと共に、臭いに対する対策や物音や声の音量にも心配りされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に関しては、家具の配置を工夫しそれぞれの好みの場所で、くつろげるように配慮している。共同空間では、数個のソファを置き、気の合った人でくつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、仏壇、位牌、遺影をもってきて頂き、安心して居心地よく過ごして頂いている。家具の配置も、本人が使いやすいようにと考え工夫している。	入居者はそれぞれの生活スタイルに合わせ、使い慣れた家具や思い出の写真、観葉植物等を持ち込み、思いおもいに居心地の良い居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下やホールには手すりを設置している。家具の位置や高さは、本人に合わせて使いやすいように工夫している。		